

捕獲したイノシシを資源化し有効活用(佐賀県武雄市)

- いのししパトロール隊や実施隊を設置し、捕獲活動を推進。
- 食肉加工処理施設で食肉加工を行うほか、食肉利用しない個体の処理のため、令和2年度に新たにイノシシの減容化施設を整備
- 捕獲したイノシシを資源化し有効活用しながら、循環型社会の実現へ

取組内容

- 捕獲・防除・棲み分けの3本柱を基本に、鳥獣被害対策を推進。これに資源化を加えて循環型社会の実現へ
- 捕獲したイノシシは、全て(株)武雄地域鳥獣加工処理センターへ搬入。捕獲頭数年間約2,000～3,000頭のうち、食肉加工できるのは1割未満であり、主に関東・関西方面へ流通



- 食肉利用しない個体は、減容化施設で乾燥処理。5～6時間かけて約70%減容

- ・建物構造: 鉄骨4柱、ガルバニウム鋼
- ・建物面積(建屋面積): 54㎡(6m×9m)
- ・機種名 : HKD-800-S型(無臭化装置)
- ・規模 : 幅1.4m×横2.5m×高さ2.4m
(処理空間内積0.8㎡)
- ・処理能力: 1バッチ 500～600kg



成果

- 減容化施設で乾燥処理してできた成果物は、窒素、リン酸、カリを含んでおり、肥料として有効活用するため、(株)武雄地域鳥獣加工処理センターが長崎県に特殊肥料生産業者届出を実施

今後の取組

- 堆肥の販売に向け、実証実験中
- 他の用途も検討しながら、捕獲したイノシシを無駄なく有効活用



捕獲したイノシシを資源化し有効活用(佐賀県武雄市)

きっかけ・背景

- 武雄市では、年間約2,000頭のイノシシを捕獲
- 従来、捕獲個体は業者に委託し処分を行っていたが、委託が困難に

課題

- 捕獲したイノシシの処分を今後どうするか

Step1 処分方法の検討 (R元)

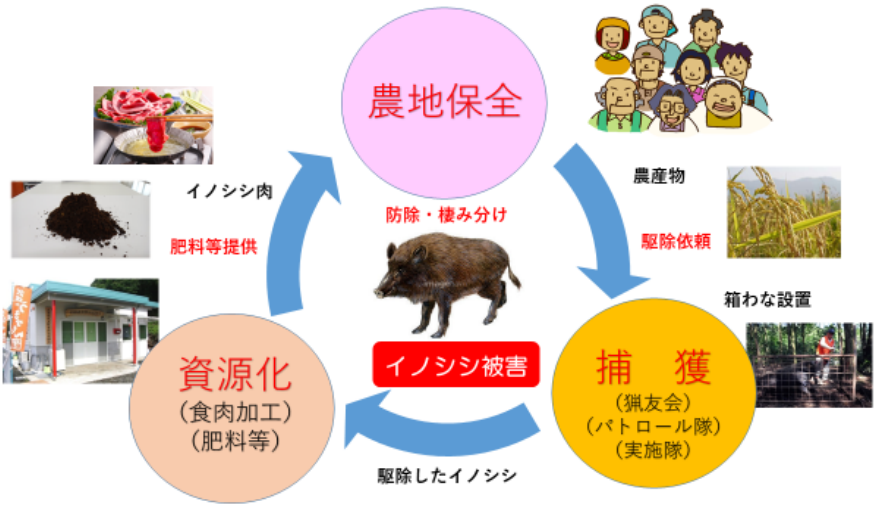
- 埋設、焼却、乾燥、委託について検討。費用面・労力面・環境面・資源面からそれぞれ検証

Step2 減容化施設の整備 (R2)

- 検討の結果、乾燥による処分が一番望ましいとの結論
- 令和2年度に食肉加工処理施設敷地内に減容化施設を整備

Step3 資源化への取組 (R2~)

- 乾燥処理してできた成果物を資源化し有効活用
- 肥料としてどのような農作物に適しているか実証



取組の特色

- 全国的にイノシシの埋設処分が課題となる中、イノシシを減容化施設で乾燥させ資源化
- 肥料として農家へ還元し、農作物に適しているか実証実験

取組による成果・効果

- イノシシ堆肥(特殊肥料)として生産業者届出を行った。現在、販売に向けて実証実験中
- さらに検証を行い、他の用途についても活用を検討

